

# あひのぼん

園芸療法士 浅野 房世さん 49

出合いが  
大切

## アケの心の通し芸園

「苦しみ、悲しむ人を丸ごと  
といやせる空間が作りたか  
った。特に病院には、がん  
を告知されたり、愛する人  
を亡くしたりした人が大勢  
いるのに、ケアがあまりに  
も貧困だから。」

「自らがけた関西労災病院  
(兵庫県尼崎市)のいやしの庭  
の完成から三か月あまり。『毎  
朝、フジのツルが今日もこんな  
に伸びている』と励まされてい  
る患者がいますよ。スタッフ  
からのうれしい声が届く。」

「自然の営みを自分の心に  
沿わせられることで、生き  
ていてよかったと思えるの  
です。」

「大学ではマーケティングを研  
究し、卒業後は美容関係の会社  
に就職した。仕事はうまくいっ  
ていたが、「人間はお金だけで  
動くの? ミッション(使命)  
で集まった組織こそ力を発揮で  
きるはず」という思いが募り、  
退職した。約二十年前のこと。」

「思い浮かんだのは、幼い  
ころ自宅で植えて育てた赤  
いゼラニウム。体が弱く、外  
で飛び回って遊ぶことがで  
きないつらい思いを慰めて  
くれていたのでしょうか。」



「多くの出合いを経  
て自分がやるべきこ  
とにたどり着いた」  
と話す浅野さん

### 夢実現が恩返し

退職後、大阪府豊中市の服部  
緑都市緑化植物園でボランテ  
ィアをしながら植物について学  
んだ。その後、公園の設計など  
を手がける会社に入り、兵庫・  
伊丹のバラ園の植栽などを担当  
した。「病院にいやしの庭を」  
という思いを強くしたのは約十  
年前。公園のユニバーサルデザ  
インのガイドラインと一緒に作  
成した旧建設省の担当課長と出  
会ったのがきっかけ。

「高齢者にも障害者にも使  
いやしい公園づくりを目指  
していた私に、「あなたの  
よくな視点は大事」と専門

「家と同じ土俵に立てるよ  
う、技術士という国家資格  
を取ることを強く勧め、応  
援してくれました。」

「課長はほごごなく、末期がんの  
妻を自宅でみとった。その後、  
三年間、九州大に飛行機で通い、  
いやしの風景をテーマに論文を  
書いた。博士号を取得し、姫路  
工業大(現兵庫県立大)の教授  
に就任した。」

「この方に恩返ししなければ  
ばという思いが大きな原動  
力となり、夢の実現に近づ  
けました。」

「二年前から、兵庫県立淡路景  
観園芸学校で、園芸を通して心  
のケアを行う園芸療法士の育成  
を始め、第一期の卒業生と関西  
労災病院の庭を造った。患者自  
身が花を植えたり、育てたりす  
ることもできる。」

「思いを束ねれば、不可能  
なことはない。人のために  
何かをすることで、自分が  
見えてくるのです。」  
(聞き手・西本 知佐子)

「淡路景観園  
芸学校ではこれ  
までに、32人の卒業  
生を園芸療法士と  
して送り出した。全国  
の病院や高齢者施設  
などから多くの引き  
合いがある。」  
「今春、三重  
県が独居老人を  
対象に始めた訪問型  
の園芸療法も支援。」  
「小児がんなど  
難病を抱える  
子どもたちのキャン  
プ施設「そらぶちキ  
ッズキャンプ」(北  
海道滝川市)の建設  
を進める運動にも携  
わっている。」